

未来を切り拓く若い力

地域のコミュニティに参画する 郡上北高等学校生徒の挑戦



「地域へ飛び出し、地域とつながった活動がしたい」。郡上北高等学校では、生徒のみなさんの思いが実際の活動へと発展し、白鳥公民館と連携した行事に自ら参画するなどの活動が生まれています。今月号では、郡上北高等学校の取り組み事例から、郡上の未来を切り拓く担い手をどのように育成していくべきかについて特集しました。

地域とつながることで
自主性が生まれた

白鳥地域では、以前から小学生や中学生が自治会や公民館などの地域活動に、ボランティアとして参加することが定着していましたが、高校ではこのつながりが途切れていました。

平成22年に中高一貫の連携教育がスタートすると、高校生になっても地域への思いが継続する流れが生まれ、現在の取り組みへと発展しました。

郡上北高等学校で実際に展開している活動のひとつに、地域づくり活動団体である奥美濃カレィファミリーのイベント参画があります。

この活動は平成28年度から始まり、B・1グランプリといった全国規模の大会や地元での行事など、市内外のイベントに数多く参加しています。最近では、イベント出展の全体企画や、提供するカレィの見せ方や販売手法まで、自ら考え実践する活動へと発展しています。

郡上北高等学校で学校改革プロジェクト委員会のリーダーを担当されている熊崎孝之教諭は、「生徒が地域とつながることには大きな意義があります。地域課題を探究する力や発想力が

自然と高まり、それが郷土愛の醸成に結びついています。」と話されました。

高校生が自ら企画し
実行した「夏フェスタ」

郡上北高等学校の生徒のみならずは、白鳥公民館の行事にも積極的に関わっています。

平成26年度から公民館の行事に郡上北高等学校の生徒が関わり始め、平成27年度には、郡上北高等学校の生徒と公民館の意見交換会が行われました。この会を契機に高校生の「公民館応援隊」としての地域活動の参加が活発化し、その後、応援隊の数は徐々に増えていきました。同年8月には、高校生が自らプランを練り上げた「夏フェスタ」が開催されました。「夏フェスタ」は高校生企画として定着し、毎年継続して開催されるイベントにまで成長しました。

平成27年度に生徒会の副会長としてこの活動をリードされた松井佳林さん（今年度から郡上市役所市長公室企画課勤務）は、「夏休みに入ると毎日のように公民館に集まり、企画を練った作業を進めたりで、開催に向けての準備は大変でした。でも、すべてを高校生でやりきったことは大きな自信になりました。」



松井佳林さん
(市役所市長公室企画課勤務)

そして何より、参加された小学生やお母さんたちに喜ばれたことがうれしかったです。」と当時を振り返り、高校生が地域の様々な活動に参画する意義を強調されました。

生徒の地元志向を高め
た郷土愛の醸成

高校生が地域と連携した取り組みを始める以前の地元企業への就職希望者の割合は、概ね30%から40%の間で推移していたのですが、平成26年度からは地元志向が徐々に高まり、平成27年度以降は70%前後で推移するまでになったとのこと。

この傾向は進学希望者にも見られ、面接練習の際にも将来は郡上市に戻って地域に貢献した

企画から運営まで北高生徒の手づくりで毎年8月に開催される夏フェスタ（白鳥ふれあい創造館で）



いと答える生徒が増えていくと、郡上北高等学校から大変興味深いことを教えていただきました。

地域への愛着が深まることで、「郡上に残りたい、戻りたい」という気持ちが高まり、結果として地元への定着につながったと考えることもできます。

郡上北高等学校では、来年度から単位制普通科の地域産業コースに、学校での授業と企業で



北高の生徒が商品企画を行った梅ゼリー。現在、道の駅清流の里しおりなどで販売中です。

人口流出を抑える鍵は 中高生の地域活動

の職業訓練を同時に進めるデュアルシステムが始まります。高い技術力で郡上市の経済を支える企業においても、ここ数年は人材不足に悩まれています。デュアルシステムは、こうした課題を解決する取り組みとして期待されます。企業実習という新しいシステムの導入と、様々な地域活動に関わる高校生の取り組みの結びつきは、さらに地元就業を促す可能性があります。

今年3月に郡上北高等学校を卒業した青木みかさん（白鳥町白鳥）は、現在大学で自治体経営について学んでいます。高校在学中に「Good郡上プロジェクト」の提案をはじめ、生徒会やクラスメイトのみなさんと

様々な地域活動に参加していました。

青木さんはこうした活動の体験を通して、「夏フェスタや夢まつりなど様々な地域活動に参加し、私たちの若い世代が郡上市の課題を当事者として考えることが大切だと考えています。」と自身の考えを話されました。そして「私は郡上市が大好きです。しかし、郡上市は人口減少など様々な問題を抱えています。故郷である郡上市がこれからも元気なまちとしてあり続けるために、私自身が郡上市のために何か行動しようと考えました。今は、都留文科大で地域社会学科に進学し、地域社会が抱える問題についての専門知識を身につけるための勉強をしています。郡上市に貢献できる人材になり、郡上市をプロデュースで



青木みかさん（白鳥町白鳥）

きるよう4年間で成長していきたいです。」と力強く語ってくれました。

郡上高等学校でも地域課題探究型の学習に着手

また、郡上高等学校では、今年度岐阜県の「地域課題探究型学習推進事業」の対象校として

若者の目線で 郡上の魅力を発信

明治大学商学部
研究グループのみなさん

八幡町島谷（山本町）で撮影



明治大学商学部中川ゼミナール 郡上プロジェクトのみなさんが平成18年から郡上市に関わり、グループで研究活動を行っています。奥美濃力レーファミリーの活動への参加をきっかけに13年間にわたり郡上市に通い続け、郡上北高等学校の生徒のみなさんともB-1グランプリなどのイベントで交流を深めてきました。グループのリーダーを務める明治大学商学部3年の山中一平さんは、「郡上の自然や郡上おどりをはじめとした歴史や文化の奥深さ、郡上で合う人に魅かれています。郡上をもっと知って、若者の目線で郡上の魅力を発信していきたい。」と話されました。

郡上に通う若者も郡上の未来を切り拓く力になっています。

指定を受け、学校の枠を超えたネットワークや協働による地域課題探究型の学習に力を入れていきます。高校生が主体的に地域とつながり、地域のみならず企業、地域づくり団体などと連携して活動する取り組みは、「地域人材」の育成と定着に大きく寄与すると言えます。